

第47回自衛消防訓練大会実施要綱

- 1 目的 湖南防火保安協会会員事業所の自衛消防隊員の育成強化および防火意識の高揚を図ることを目的とします。
- 2 日時 令和5年10月18日(水) 9時10分から12時00分
(受付: 8時30分から9時00分)
※雨天時は 10月19日(木)に延期
(10月19日が雨天の場合は中止とします)
※当日7時00分の気象状況により決定します。
- 3 会場 湖南広域消防局 東消防署 消防訓練場
野洲市辻町488番地
- 4 主催 湖南防火保安協会
- 5 後援 湖南広域消防局
- 6 訓練種目 (1) 消火器(男子・女子)の部
火災を知らせた後、駆けつけた従業員に指示を与え、水消火器を使用し標的を落下させる。
(2) 屋外消火栓操法の部
4名が協力し、屋外消火栓を使用し放水により標的を転倒させる。
(3) 小型動力ポンプ操法の部
4名が協力し、小型動力ポンプを使用し放水により標的を転倒させる。
- 7 審査員 運営委員および消防職員とします。
- 8 参加制限 (1) 会員事業所を対象とし、消火器操法については男子の部2名以内、女子の部2名以内とします。
(2) 屋外消火栓操法の部、小型動力ポンプ操法の部については、それぞれ1チームとします。
(3) 同一人の重複出場は認めません。
(4) 前回の大会において、最優秀賞若しくは優秀賞を受賞した者(個人)およ

び同賞を受賞したチームの同一メンバーの出場は認めません。（入賞チームの同一メンバーの出場については、制限しません。）

例) 前回、屋内消火栓操法の部最優秀事業所：A事業所

前回出場者	今年度出場者	出場の可否
指揮者： <u>Bさん</u> 1番員： <u>Cさん</u> 2番員： <u>Dさん</u>	指揮者： <u>Bさん</u> 1番員： <u>Cさん</u> 2番員： <u>Dさん</u>	× 前回と同一メンバーのため
指揮者： <u>Bさん</u> 1番員： <u>Cさん</u> 2番員： <u>Dさん</u>	指揮者： <u>Cさん</u> 1番員： <u>Dさん</u> 2番員： <u>Bさん</u>	× 番手が変わっても同一メンバーのため
指揮者： <u>Bさん</u> 1番員： <u>Cさん</u> 2番員： <u>Dさん</u>	指揮者： <u>Eさん</u> 1番員： <u>Cさん</u> 2番員： <u>Dさん</u>	○ 指揮者メンバー交代のため

- 9 出場順位 実行委員長が抽選により決定します。
- 10 表彰 各種目、一定の基準に達したすべての個人又は隊を入賞とし、その中から最優秀賞・優秀賞を表彰します。
- 11 使用器具 (1) 消火器に使用する器具等は、主催者で準備しますが、装備品（ヘルメット、手袋、警笛、強力ライト）は出場者で準備してください。ただし、準備できない場合は主催者で準備した物を使用することも可能です。
- (2) 屋外消火栓操法に使用するホースは、出場チームの持ち込みの物を使用します。その他の器具については、主催者で準備します。
- (3) 小型動力ポンプ操法の部に使用するポンプ、ホース、枕木は出場チームの持ち込みの物を使用します。
- 12 服装 (1) 各訓練に適した服装で、長袖・長ズボンとし、ヘルメット・手袋(軍手・革手袋どちらでも可)は必ず着用し、足元は運動靴(安全靴可)を着用してください。また、ヘルメットが無い場合は、主催者で準備している物を使用してください。

(2) 半袖または半ズボンでの訓練への参加は認めません。

13 操法研修会 各種目については、東消防署にて研修会を開催し、操法の展示・説明を実施しますので、出場隊は参加してください。（代表者1名の参加も可能です）

今年度、競技要領に改正がありますので確認をお願いします。

(1) 日時 9月21日（木）9時00分から12時00分まで

(2) 内容 消火器の部・屋外消火栓操法の部・小型動力ポンプ操法の部

14 その他 (1) 訓練中の事故については、主催者で応急処置を行うとともに傷害保険に加入しますが、その後の責任は負いません。

その他、いかなる事故についても一切の責任を負いません。

(2) 大会当日において、参加者（選手ならびに使役関係者）に体調不良がみられる場合は来場を控えてください。

(3) 今大会は、午前中開催により昼食の準備はいたしません。（飲料については配布いたします）

自衛消防訓練大会

種目要綱

令和5年改訂版

湖南防火保安協会

はじめに

この自衛消防訓練大会は、初期消火技術の向上と防火意識の高揚を目的として、昭和50年10月15日に綾羽工業(株)草津工場にて第1回自衛消防競技が実施され、その後、平成17年の大会において「競技大会」から「訓練大会」に名称を変更し、本年度で47回目を迎えようとしています。

以来今日まで、自衛消防訓練大会を継続してきたことにより、回を重ねるごとに消火技術の向上は目覚ましいものがあります。

しかしながら火災、地震、その他災害等は、いつどこで発生するか予測できません。その中でも火災は、特に初動対応が大切で、火災を早期に発見し被害を最小限にとどめるため、その場にいる人の迅速かつ的確な行動が必要不可欠となってきます。そのためには、日々の訓練が大切です。人間は突発的に災害に遭遇するとパニックに陥りやすいもので、もし火災等が起こっても冷静に慌てずに行動できるよう、繰り返し訓練を実施することによって、体で覚えた行動が万一の時に役立ちます。

そして自衛消防訓練大会を継続していくことで、災害予防に関する知識の習得、技術の向上、保安体制の確立を図れ、更なる企業防災の向上に繋がります。

このことから、消火技術の更なる向上のため自衛消防訓練大会種目の要綱を改正しました。改正背景としては、令和5年4月に滋賀県消防操法訓練大会操法実施要領が全部改正されたことから、小型動力ポンプの部を全部改正し、それにならび屋内消火栓操法の部および屋外消火栓操法の部を全部改正しました。また、自衛消防訓練大会各種目の他に統一事項が多数あったことから要綱に組み入れたものです。

最後になりましたが、長年にわたり湖南防火保安協会会員事業所の皆様には企業防災に御尽力いただき感謝申し上げます。

今後とも災害発生時の自助、共助、公助の重要性について認識を強め、湖南防火保安協会会員一同が湖南地域の安全安心な街づくりに、お力添え賜りますようお願い申し上げます。

【 目 次 】

1 消火器の部

(1) 訓練規定	1
(2) 審査規定	1
(3) 全体図	2
(4) 操法実施要領	3
(5) 詳細	4
(6) 標的詳細	5
(7) 審査表	6

2 屋内消火栓操法の部

(1) 訓練規定	1
(2) 審査規定	2
(3) 全体図	3
(4) 操法実施要領	4
(5) 総合動作審査表	5
(6) 計時審査表	6

3 屋外消火栓操法の部

(1) 訓練規定	1
(2) 審査規定	2
(3) 全体図	3
(4) 経路図	4、5、6
(5) 操法実施要領	7、8、9
(6) 審査表 (総合)	10
(7) 審査表 (指揮者)	11
(8) 審査表 (1番員)	12
(9) 審査表 (2番員)	13
(10) 審査表 (3番員)	14
(11) 計時審査表	15

4 小型動力ポンプ操法の部

(1) 訓練規定	1
(2) 審査規定	2
(3) 全体図	3
(4) 経路図	4
(5) 待機位置等	5、6
(6) 操法実施要領	7、8、9
(7) 審査表 (総合)	10
(8) 審査表 (指揮者)	11
(9) 審査表 (1番員)	12
(10) 審査表 (2番員)	13
(11) 審査表 (3番員)	14
(12) 計時審査表	15

消 火 器 の 部

湖 南 防 火 保 安 協 会

消火器の部

【訓練規定】

1 使用器具等

消火器は、支部で準備した水消火器を使用する。
装備品は、ヘルメット、手袋、警笛、強力ライトとし、出場者で準備する。
ただし、準備できない場合は支部で準備したものを使用する。
※警笛、強力ライトは、首または肩に掛けられるものとする。
※手袋は、革手袋・軍手等指定しないが、皮膚が露出しないものとする。

2 服 装

出場者の服装は、訓練に適したもので、長袖・長ズボンとし、袖は手袋をはめた状態で皮膚が見えない長さ、ズボン裾、靴下は皮膚が見えない状態であること。靴は、訓練に適した運動靴（安全靴可）とする。

3 訓練要領

別に定める消火器操法訓練要綱のとおりとする。

4 進 行

スタートラインに整列し、スターターのピストルの合図によりスタートする。

5 風 向

風向はスタート側から標的方向とし、退出路はスタート側とする。

【審査規定】

1 審査範囲

(1) 操法動作審査

全体動作に係る、各操作等の行動が適しているか否かの事項および総合的な事項について審査する。

スターターのピストルの合図から「消火完了報告」までとする。

(2) 所要時分審査

基準タイム60秒とし、スターターのピストルの合図から全ての標的が落下した時までを計測する。

2 失格等

(1) 出場時にスタートラインに整列しない場合は、失格とする。

(2) 出場者が搬送してきた消火器と従業員③が搬送してきた消火器、計2本の消火器で標的を落とせなかった場合は失格とする。

(3) 訓練実施中、出場者に不測の事故が発生し、訓練の続行が不可能と認められる場合は、審査長の判断により「中止」または「再訓練」を決定する。

3 入賞の決定

基準タイム内にゴールし、審査項目の否がない出場者は入賞とする。

また、その中から総合点が多い者を上位とする。同点数の場合は、所要時分の速い者を上位とする。

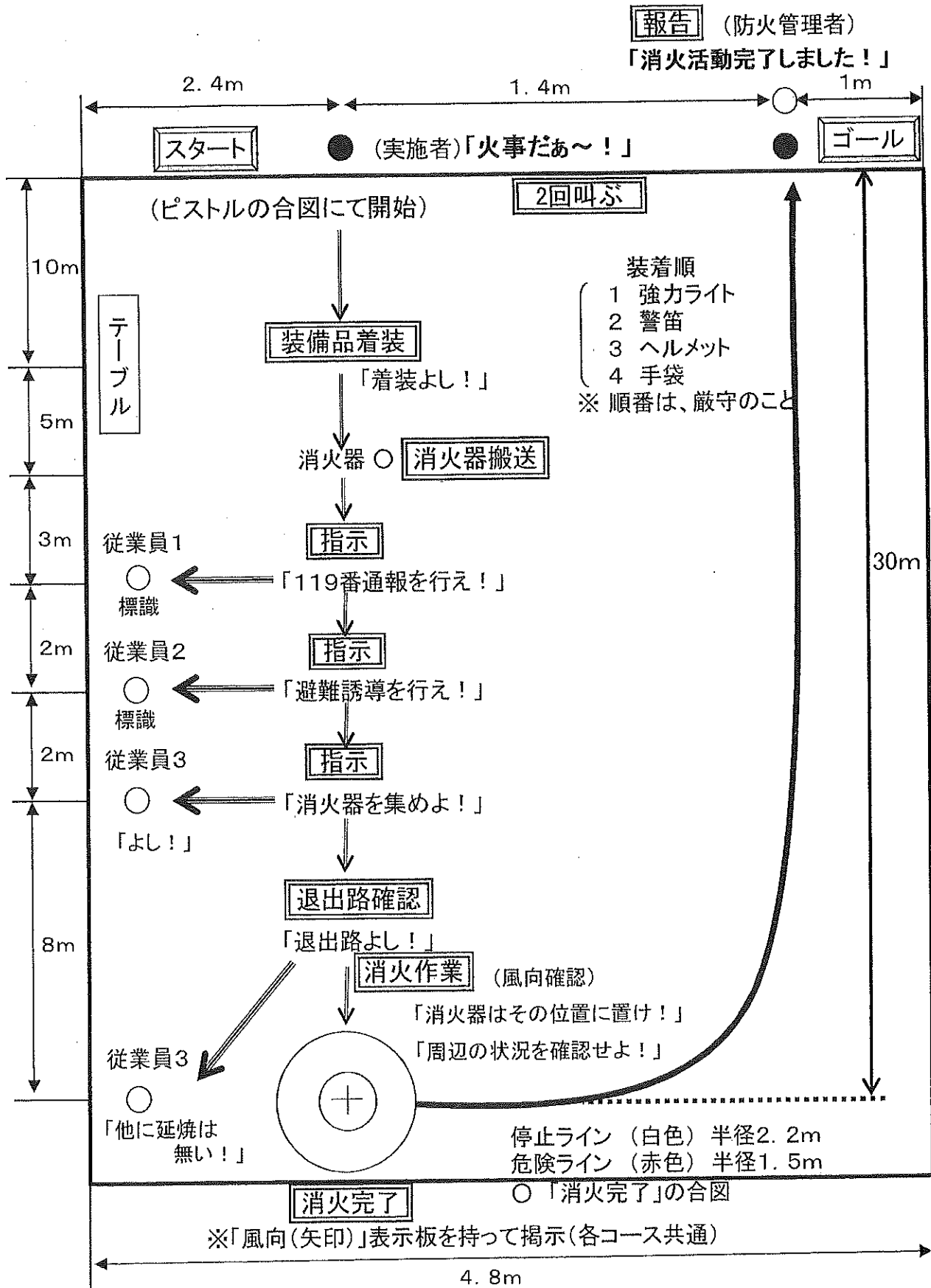
消 火 器 の 部 (操 法)

1 実施人員 1名

2 実施要綱

項 目	要 綱	係 員
スタート	ピストルの合図により開始する。 「火事だ!」と大きな声で2回叫ぶ。	
装備品着装	装備品を確実に強力ライト、警笛、ヘルメット、作業用手袋の順に着装し、「着装よし!」と呼称する。	
消火器携行	消火器を携行搬送する。	
指示	「火事だ!」を聞きつけ駆けつけた従業員に指示を与える。	
	119番通報を指示する。 「119番通報を行え」	従業員① (標識)
	避難誘導を指示する。 「避難誘導を行え」	従業員② (標識)
	消火器の搬送を指示する。 「消火器を集めよ」	従業員③ 「ヨシ」
退出路確認	指差しで「退出路よし」と確認呼称する。	
消火	消火器を操作して消火作業を行う。 (風向等も考慮した消火活動)	
指示	消火器を搬送してきた従業員③に指示を与える。	従業員③ 「消火器準備 ヨシ」
	「消火器はその位置に置け」「周辺の状況を確認せよ」	従業員③ 「ヨシ」
消火完了	周囲の状況を確認した従業員から、「他に延焼は無い」と報告を受ける。	従業員③ 「他に延焼は 無い」
	係員から「消火完了」の合図を受けスタート地点へ戻る。	消火担当係員 「消火完了」
報告	防火管理者に消火完了報告。 「消火活動、完了しました」	防火管理者 「ヨシ」

消火器の部全体図

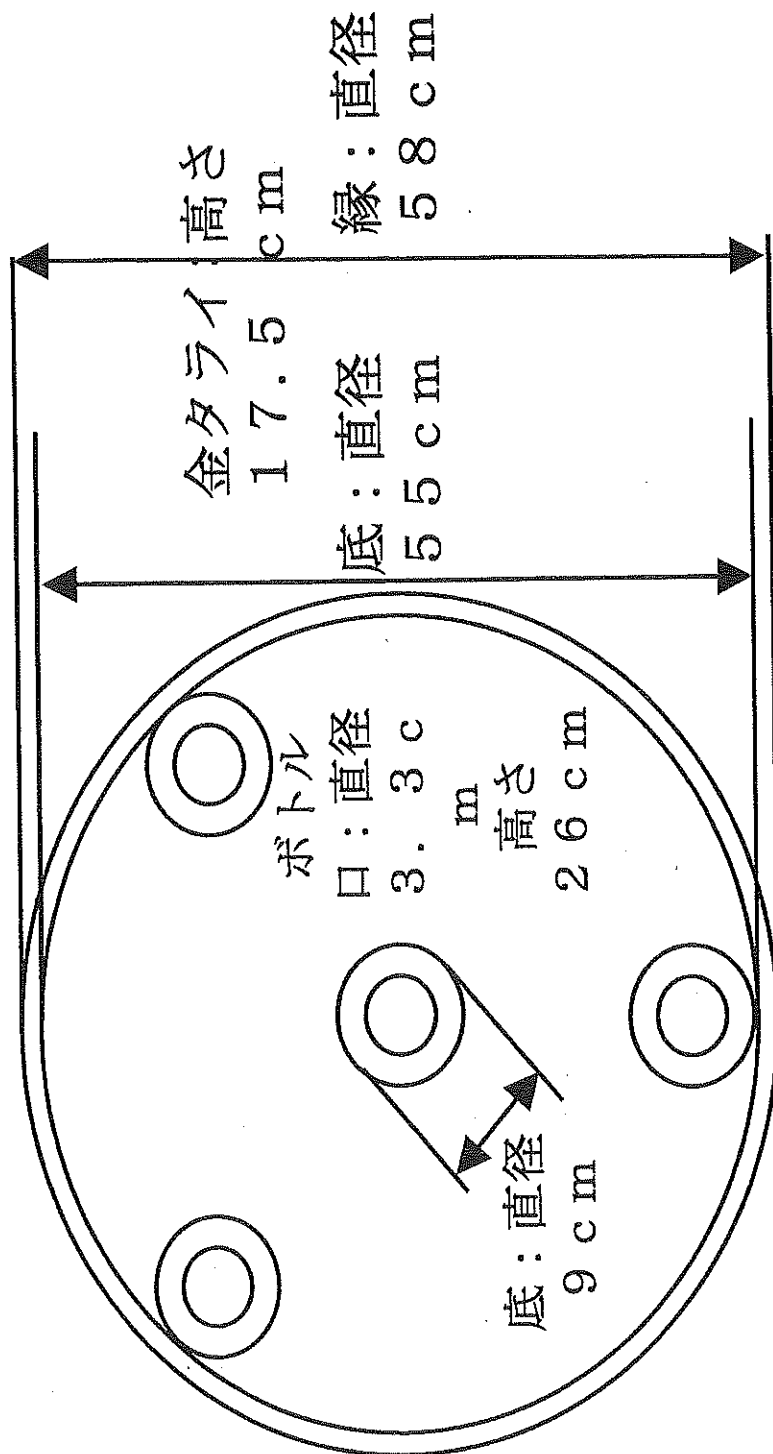


消 火 器 の 部 詳 細

- ・ スタートライン、停止ライン、危険ラインはそれぞれ踏んでも越えてもいけないこと。
- ・ 標的は、アルミボトル缶の上にボール（野球軟式ボールA球）を置いた物を4本とし、標的落下は4本全てのボールを落とした時点とする。
- ・ 出場者はスタートの合図の後、スタート位置にて火災発生を周りの人に知らせるため“明らかな大声”で「火事だあ〜！」と2回叫ぶ。
- ・ 装備品（ヘルメット、手袋、警笛、強力ライト）は、コース備え付けのテーブルに準備するが、置く位置は自由とし、着装順は強力ライト・警笛・ヘルメット・手袋の順とする。また、着装が完了した時点で「着装よし！」と呼称する。
- ・ 警笛および強力ライトは、同時に着装することなく首もしくは肩に掛け、消火器搬送の支障にならないようにする。（強力ライトと警笛を同時に着装した場合は、着装不適とする。）
- ・ 強力ライトよし」「警笛よし」「ヘルメットよし」「手袋よし」とそれぞれに呼称して着装しても採点対象外とするが、最後に「着装よし」の呼称をすること。
- ・ 「火事だあ〜！」の呼び掛けを聞きつけ駆けつけた従業員を所定の位置に待機させる。
- ・ 指示する従業員3名のうち、「119番通報」と「避難誘導」の従業員をコーン標識に代え、「消火器収集」の従業員③は担当者を充てる。
- ・ 従業員①・②・③に指示をする時は、必ず従業員①から③の範囲の前で1度停止し、指示を行うこと。なお、指示をする場合は従業員に対し指差しにて行うか、従業員それぞれ3人の方向に顔を向けて行う。
- ・ 停止ライン（白色）前で止まり、退出路方向を確認後、「退出路よし」を指差し呼称し、消火器を地面に降ろしてから、「消火器の操作」である「安全ピン」を抜く。
- ・ 呼称前に消火器を置いても良いが、消火器を持ちながらピンを抜くことはいけない。
- ・ 消火位置は停止ライン（白色）内に入り、危険ライン（赤色）の外で行う。
- ・ 「消火器収集」の指示を受けた従業員③は、指示を受けた後、付近に設置されている消火器を持ち、消火している出場者の約1m後方まで搬送し、標的が落下した時点もしくは消火器の水がなくなった時点で「消火器準備よし！」と出場者に報告する。
- ・ 従業員③の「消火器準備よし！」と消火器搬送報告を受けたら、従業員③の方向に顔を向け、「消火器はその位置に置け！」と指示し、標的が落下していなければ消火を継続し、消火が完了していれば、「周辺の状況を確認せよ！」と指示する。
- ・ 上記指示を受けた従業員③は、周囲を指差し確認し、「他に延焼は無い！」と出場者に報告する。
- ・ “消火”担当係員は、上記報告完了を確認したら「消火完了」と赤旗等で合図する。
- ・ 出場者は、「消火完了」の合図を確認した後、スタートラインに戻り、防火管理者に「消火活動完了しました！」と報告し訓練を終了する。
- ・ 指示や報告の言葉は、目的を明確にした言葉なら要領に類似した言葉でも良い。ただし、言葉が早すぎたり、声が小さく聞き取りにくければ「指示不適」となる。

消火器の部 標的詳細

標的：○軟式野球ボールA球



消火器の部審査表

組		コース		事業所		氏名	
						審査員氏名	

	項目	適否
操作項目	「火事だ!」と大きな声で2回叫んだか。	適 ・ 否
	装備品を確実に着装し、「着装よし」の呼称をしたか。	適 ・ 否
	119番通報を指示したか。	適 ・ 否
	避難誘導を指示したか。	適 ・ 否
	消火器の搬送を指示したか。	適 ・ 否
	退出路を確認したか。	適 ・ 否
	消火器操作は適正か。(その場で、安全栓を抜く、ホースを火元に向ける、レバーを握る)	適 ・ 否
	消火姿勢は適正か。(安定した姿勢で操作したか)	適 ・ 否
	消火の位置は適正か。(危険ラインの進入はなかったか)	適 ・ 否
	追加消火器の位置を指示したか。(風上に指示したか)	適 ・ 否
	周囲の状況確認を指示したか。	適 ・ 否
	報告は適正か。	適 ・ 否
適の数		/12
総合	安全性はどうか。	1・2・3・4・5
	確実性はどうか。	1・2・3・4・5
	迅速性はどうか。	1・2・3・4・5
	士気・規律はどうか。	1・2・3・4・5
総合点合計		

計時員1	計時員2
秒	秒

平均
秒

屋 内 消 火 栓 操 法 の 部

湖 南 防 火 保 安 協 会

屋内消火栓操法の部

【訓練規定】

1 使用器具等

使用器具は、備え付けの屋内消火栓ボックスを使用する。
消防ホース、筒先は出場事業所で準備する。
使用消防ホースは、内径40mm長さ15mのものを2本使用する。
筒先ノズル口径は、13mmとする。

2 服 装

出場隊員の服装は、操法に適したもので長袖・長ズボン・手袋とし、袖は手袋をはめた状態で皮膚が見えない長さ、ズボン裾、靴下は皮膚が見えない状態であること。

手袋は、革手袋・軍手等指定しないが、皮膚が露出しないものとする。
靴は運動靴（安全靴可）とし、ヘルメットを着用すること。

3 操作要領

別に定める屋内消火栓操法要綱のとおり

4 進行合図（赤旗）

出場準備	出場準備係は、「出場準備」と声を出して赤旗を下げる。
操作開始	スタート係のピストルの合図によりスタートする。
標的転倒	標的係は、標的が転倒したならば赤旗を下げる。
放水止め	標的係は、「放水止め」と声を出して赤旗を下げる。
排水完了	標的係は、1番員の前方で「排水止め」と声を出して赤旗を正面斜め前方に振る。
納 め	標的係は、「納め」と声を出して赤旗を下げる。

5 準 備

ボックス内にホースを納める際、進行をスムーズにするため、出場前に指定の箱にホースを折り畳み準備する。

【審査規定】

1 審査範囲

(1) 総合動作審査

出場隊の全体動作に係る、共同操作の不整一および操作の不確実な行動について審査する。(100点満点)
待機線上に整列した時点から「別れ」まで。

(2) 所要時分審査

基準タイム30秒とし、訓練開始のピストルの合図から、標的が転倒した(標的係が赤旗を下ろした)時点までを計時し、その所要時分(1秒につき1点)を総合動作審査点から減点する。

2 失格等

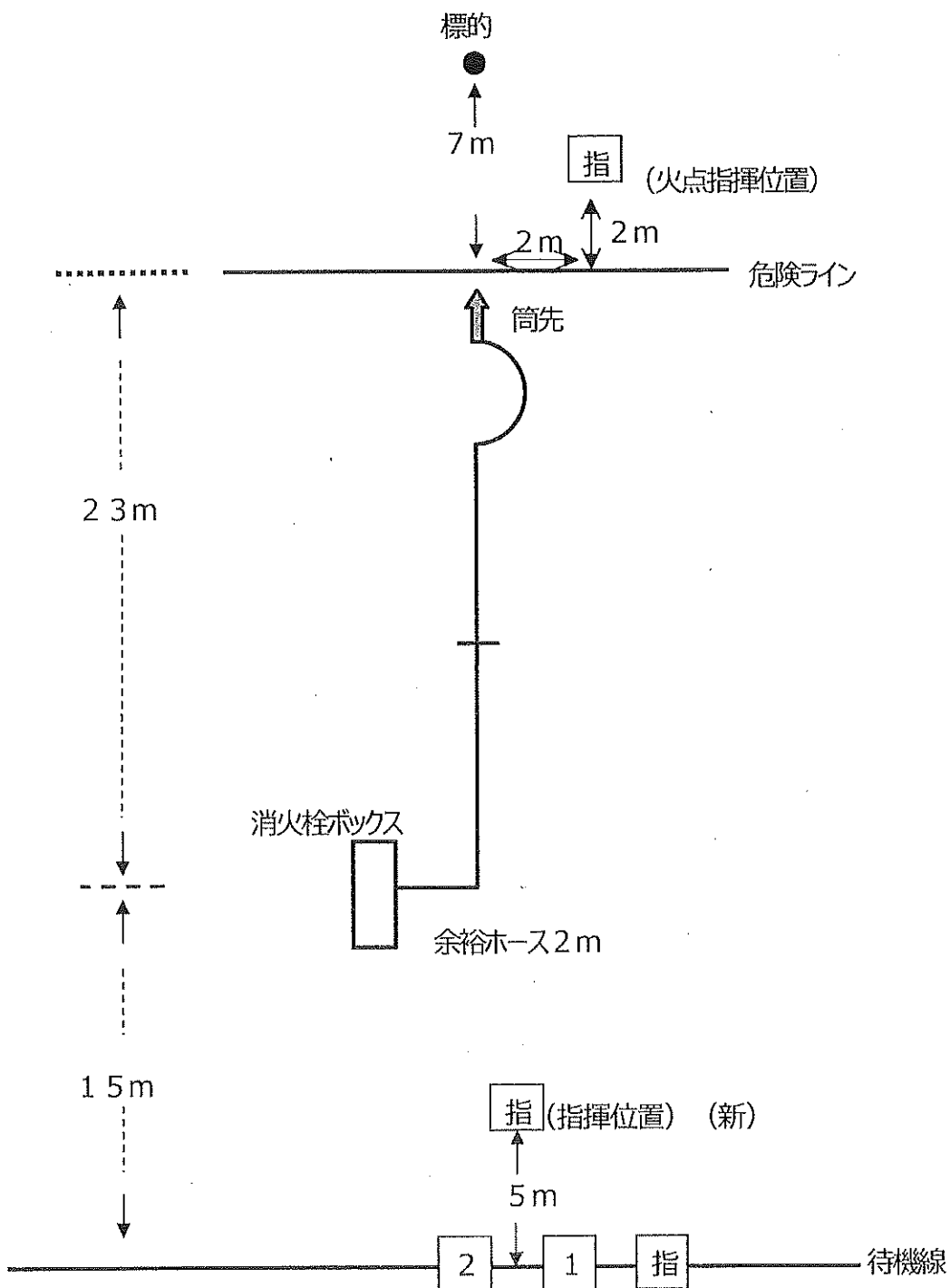
(1) 出場時に待機線に集合しない場合は、失格となる。

(2) 訓練実施中、出場者に不測の事故が発生し、訓練の続行が不可能と認められる場合は、審査長の判断により「中止」または「再訓練」を決定する。

3 順位の決定

総合動作審査の点数を持ち点とし、所要時分審査の減点数を減じて、持ち点70点以上で所要時分30秒未満のチームを入賞とする。また、その中から持ち点の多いものを上位とする。同点数の場合、所要時分の速いものを上位とする。

屋内消火栓操法全体図



屋内消火栓操法の部実施要領

	指 揮 者	1 番 員	2 番 員
待機	係員の合図により待機線上の明示した位置に整列する。	係員の合図により待機線上の明示した位置に整列する。	係員の合図により待機線上の明示した位置に整列する。
スタート	ピストルの合図の後、火点指揮位置に至り、火点を監視した後、隊員の活動が見える方向に向きを変え、隊員を監視する。	ピストルの合図の後、15メートル前方の消火栓ボックスまで至り、2番員と協力し、全てのホースを脇に抱えホース延長を行う。	ピストルの合図の後、15メートル前方の消火栓ボックスまで至り、1番員のホース延長操作を補助し消火ポンプ起動スイッチを入れ屋内消火栓ボックス前で不動の姿勢をとる。
放水始め	1番員の注水姿勢を確認後、1番員の筒先補助を行う。 放水的中後、係員の合図により火点指揮位置に至り、標的の方向を向いて不動の姿勢をとる。	ホース延長中、ホース結合部が脇から落ちたら、2番員の方を振り向き「放水始め」と合図し、火点に至り5メートルの余裕ホースをとり注水姿勢をとる。 筒先を確実に保持し、標的に放水を的中させる。	1番員の「放水始め」の合図に対し右手を真上に上げて復唱の後、開閉バルブを全開し、放水が確実に行われていることを確認後、駆け足で1番員後方まで進み1番員の筒先補助を行う。
放水止め	係員の赤旗の合図により、標的監視の姿勢から1番員の方向に向きを変え「放水止め」と号令し1番員が不動の姿勢をとった後、標的の方向に向きを変え不動の姿勢をとる。	指揮者の「放水止め」の号令に対し、「放水止め」と復唱し、2番員の「放水終わり」の合図で「よし」と呼称し、排水操作を行った後、係員の合図で左足を引き付け筒先を足元に立てて不動の姿勢をとる。	1番員の「放水止め」の復唱に対し、「よし」と呼称し、消火栓ボックス前に至り、開閉バルブを完全に閉め、確実に止まったことを確認後、駆け足で筒先補助位置に至り、不動の姿勢をとって「放水終わり」と呼称する。
収納・解散	係員の赤旗の合図により1番員の方向に向きを変え「納め」と号令し、集合指揮位置に至り、自身の服装点検を実施後、1・2番員の整列を確認した後に、「わかれ」と号令し、各隊員に挙手注目の敬礼で答礼する。	指揮者の「納め」の号令で筒先をその場に置き、2番員と共に駆け足で集合線に至り、服装点検後不動の姿勢をとり、指揮者の「わかれ」の号令で指揮者の方向に向向いて挙手注目の敬礼を行い解散する。 ※方向転換しなくても良い	指揮者の「納め」の号令で1番員と共に駆け足で集合線に至り、服装点検後、不動の姿勢をとり指揮者の「わかれ」の号令で指揮者の方向に向向いて挙手注目の敬礼を行い解散する。 ※方向転換しなくても良い

①ホースの落下については、ホース1本分を落とせば落下として減点（審査表「要領遵守度」1回2点減点）

②落下させたまま延長すればひきずりとして減点（審査表「要領遵守度」1本につき1回2点減点）

※ホースの延長時、ホース結合部が脇から落ちた後の「放水始め」の号令は走りながらしても良い

※ホースの延長は、脇に抱えて延長するようになっているが、落とさなければどんな搬送方法でも減

屋内消火栓操法の部総合動作審査表
(男子・男女混成)

(組 コース)

隊名		氏 審査員 名		点数		検査員	
----	--	------------	--	----	--	-----	--

項 目	A	B	項目合計 (A+B)
規律・節度 (動作の不整一)	1・2・3・4・5	1 5	
敏しょう性	1・2・3・4・5	1 5	
士 気	1・2・3・4・5	1 5	
安 全 性 (つまづき、転倒、 危険ラインオーバー) 各1回につき2点減点する。	正の字でチェック	チェックX2 (A)	20 - (A) =
要領遵守度 (行動、操法の不確実) 各1回につき2点減点する。	正の字でチェック	チェックX2 (A)	20 - (A) =
合 計	/		

屋内消火栓操法の部計時審査表

(組 コース)

隊名		審査員	
----	--	-----	--

計時員 1	計時員 2	平均タイム

減点

(平均タイム1秒につき1点減点)

- ★ スタートの合図から標的が転倒するまでのタイムを記入。
- ★ 小数点第2位まで記入のこと。
- ★ 平均タイムは、集計係が記入します。

屋外消火栓操法の部

湖 南 防 火 保 安 協 会

屋外消火栓操法の部

【訓練規定】

1 使用器具等

消火栓は、地上式屋外消火栓とし、備え付けのものを使用する。
消火栓ボックスは、備え付けのものを使用する。
使用する消防ホースは出場事業所で準備する。
消防ホースは内径65mm・長さ20mを2本とする。
筒先ノズル口径は19mmとする。

2 服 装

出場隊員の服装は、操法に適したもので長袖・長ズボン・手袋とし、袖は手袋をはめた状態で皮膚が見えない長さ、ズボン裾、靴下は皮膚が見えない状態であること。
手袋は、革手袋・軍手等指定しないが、皮膚が露出しないものとする。
靴は運動靴（安全靴可）とし、ヘルメットを着用すること。

3 操法要領

別に定める屋外消火栓操法要綱のとおり

4 進行合図

出場準備	出場準備係は、「出場準備」と声を出して赤旗を下げる。
訓練開始	出場準備係は、「操作開始」と声を出して赤旗を下げる。
標的転倒	標的係は、2ヶ所の標的が転倒したならば赤旗を下げる。
放水止め	標的係は、「放水止め」と声を出して赤旗を下げる。
排水完了	標的係は、1番員の前方で「排水止め」と声を出して赤旗を正面斜め前方に振る。
納 め	標的係は、「納め」と声を出して赤旗を下げる。

5 準 備

消火栓ボックス内の収納方法については自由とする。

【審査規定】

1 審査範囲

(1) 操法動作審査

全体動作に係る、共同操作の不整一および操作の不確実な行動について審査減点する。

指揮者の「集まれ」から「別れ」まで。

(2) 所要時分審査

基準タイムを45秒とし、指揮者の「操作始め」の号令により3番員の「よし」の合図の「し」から2ヶ所の標的が転倒するまでを計時し、その所要時分を1秒につき1点減点する。

2 失格等

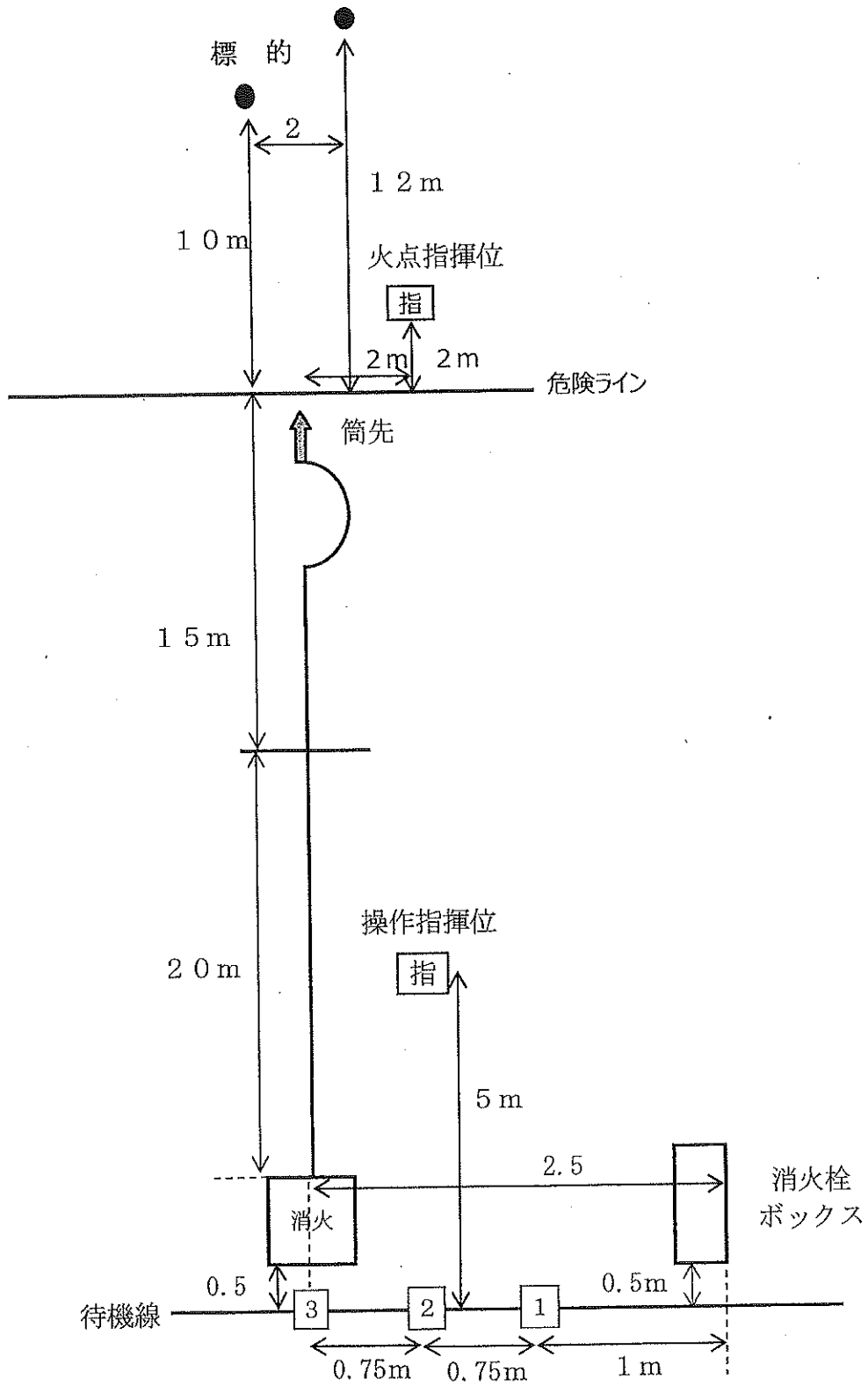
(1) 出場時に待機線に集合しない場合

(2) 訓練実施中、出場者に不測の事故が発生し、訓練の続行が不可能と認められる場合は、審査長の判断により「中止」または「再訓練」を決定する。

3 順位の決定

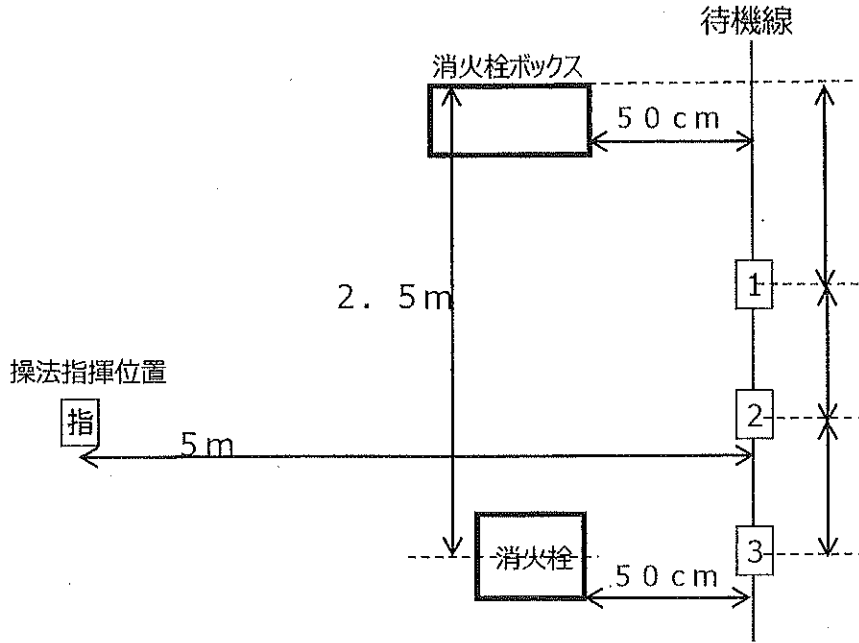
審査規定に基づき審査し、その減点数を合計し、減点数10点以内で所要時分45秒未満のチームを入賞とする。また、その中から減点数の少ないものを上位とする。同点数の場合、所要時分の速いものを上位とする。

屋外消火栓操作法 全体図

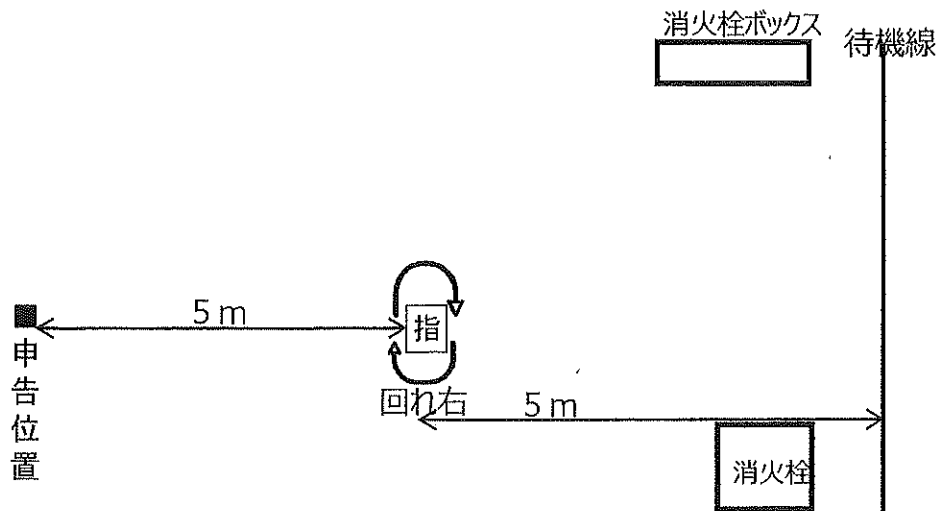


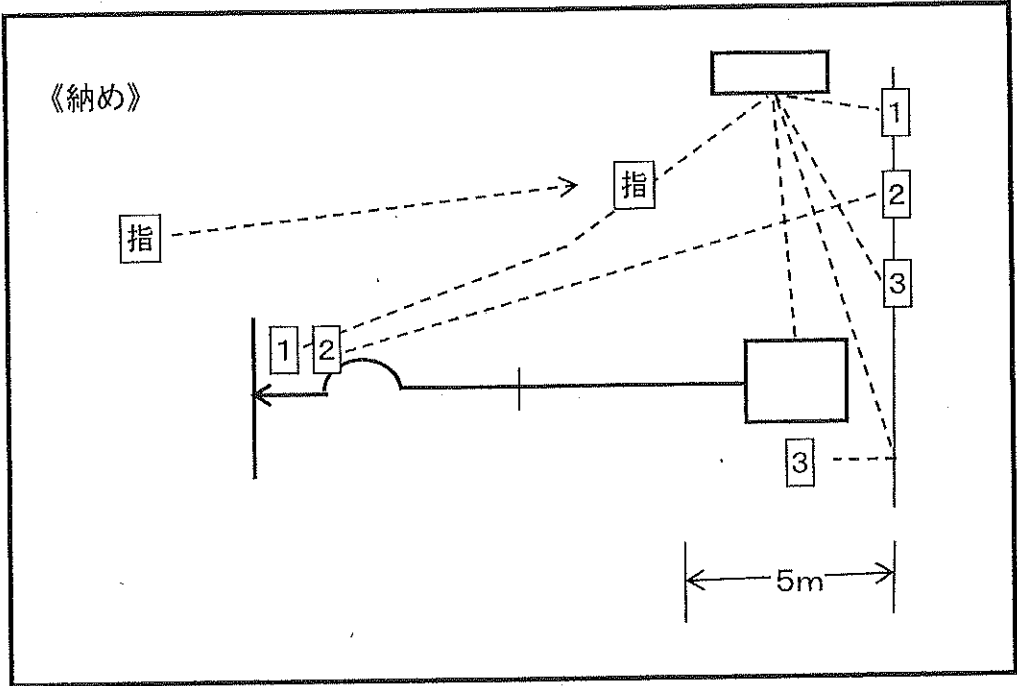
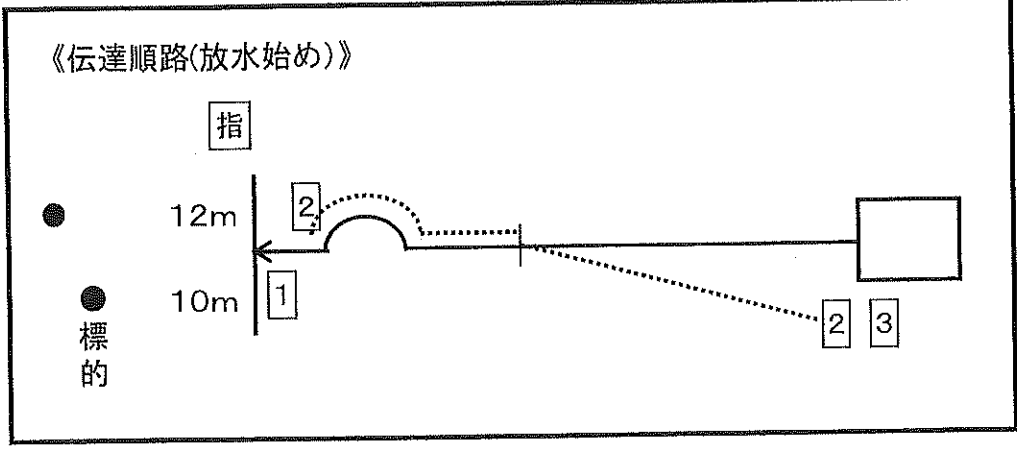
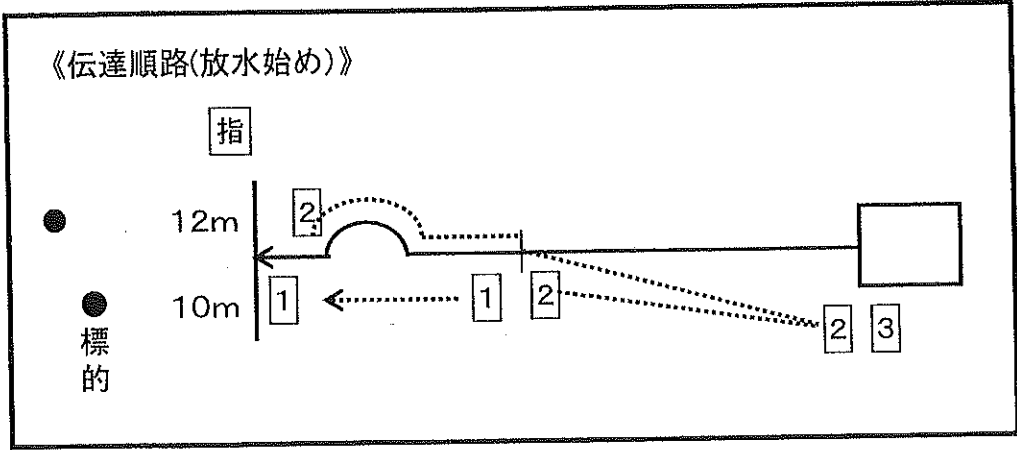
屋外消火栓操法 経路図

《操法開始場所》

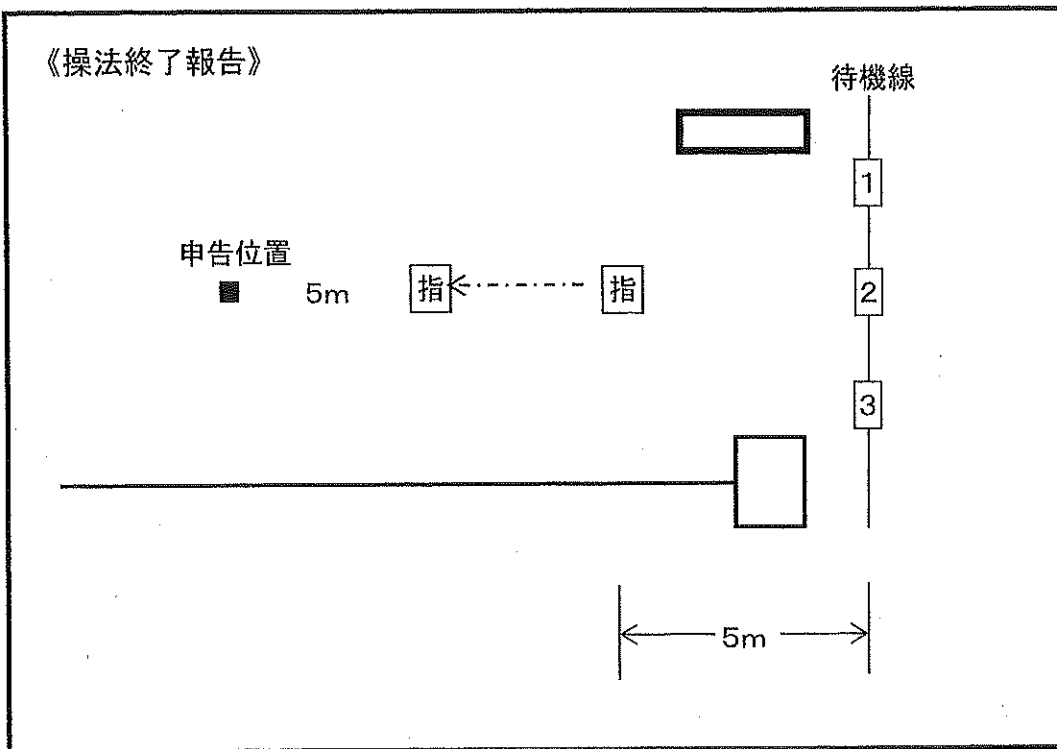


《操作開始申告経路》





《操法終了報告》



屋外消火栓操作法の部実施要領

	指 揮 者	1 番 員	2 番 員	3 番 員
待機	係員の「出動準備」の合図より、待機指揮位置で火点方向を向いて整列休めの姿勢で待機する。			
点呼	係員の合図により待機指揮位置で回れ右をし、各隊員に対して相対した後、「気をつけ」の号令をかけ隊員を基本の姿勢にし、「番号」と号令する。	指揮者の「番号」の号令で1番員から順次番号を呼称する。		
申告	待機指揮位置で回れ右をし、報告受領者に拳手注目の敬礼後、「〇〇自衛消防隊 いたします」と報告し、拳手注目の敬礼を行った後、回れ右をする。	各隊員は、基本の姿勢で待つ。		
想定	「火点は前方の標的、水利は横の消火栓、手びるるめによる二重巻きホース一線延長」と想定付与する。	各隊員は、基本の姿勢で指揮者の想定を受ける。		
操作始め	「操作始め」と号令し、操作の状況を監視しながら、隊員に先行し火点に向かっつて前進する。火点指揮位置に至る。 ※火点に向かっつて前進するタイミン グは、1番員が筒先を背負い、ホースをかついた時点とする。	3番員の「よし」の合図で、他の隊員と協力して消火栓ボックから第1ホースをもち、延長後、ホースで延ばし、ホースの先を筒先と結合し、筒先を保持する。片手保持は筒先が長く、保持しても良い。	3番員の「よし」の合図で、他の隊員と協力して消火栓ボックから第1ホースをもち、延長後、ホースの先を筒先と結合し、筒先を保持する。片手保持は筒先が長く、保持しても良い。	「よし」と合図し、他の隊員と協力して消火栓ボックから第1ホースをもち、延長後、ホースの先を筒先と結合し、筒先を保持する。片手保持は筒先が長く、保持しても良い。

放水始め	<p>火点指揮位置に至れば、隊員の操作状況を監視する。</p> <p>1 番員の注水位置を「筒先位置」と指示する。「伝達終わり」を確認してから、火点に向かって基本の姿勢をとる。</p> <p>※「筒先位置」と指示するタイミングは、1番員が余裕をとるまでとす。</p>	<p>2番員に号令「放水始め」と合図し、火点に向かって約1.5メートル前進し、危険ライン手前で5メートルの余裕をとる。</p>	<p>1番員の号令「放水始め」の合図を復唱し、回れ右し右足を引き付けず消火栓前約2メートルの位置にまで至り、「放水始め」と伝達し3番員の復唱を受けた後、注水補助位置に至り「伝達終わり」と合図を出して注水操作を補助する。</p>	<p>2番員の「放水始め」の伝達を右手を真上に上げて「放水始め」と復唱し、開閉ハンドルを開き送水する。注水中は、ハンドルを右手で保持する。</p>
------	---	---	---	---

改正概要

- ・小型動力ポンプの部が全部改正したことから、小型動力ポンプの部に合わせて「集合」を止め、指揮者は「待機指揮位置」、各隊員は「待機線上」に待機することとした。
- ・文言の整理として、「気をつけ」の号令で、「不動の姿勢」を「基本の姿勢」とした。
- ・その他、過去に統一事項として別記していた項目を要領に盛り込んだ。

屋外消火栓操作法の部実施要領

	指揮者	1 番員	2 番員	3 番員
放水止め	係員の「放水止め」の合図により1番員の方向に向きを変え、「放水止め」と号令する。	「放水止め」と復唱する。2番員の「伝達終わり」の合図で「よし」と呼称し、排水操作を行った後、係員の「排水止め」の合図により左足を引き付け、筒先を右足脇に立てて不動の姿勢をとる。	「よし」と合図し、後方へ向きを変えて前進し、消火栓前約2メートルの位置に止まって停止し、右手を横水平に上げて「放水止め」と3番員に伝達し、3番員の復唱を受けた後、注水補助位置に立ち寄り基本姿勢で「伝達終わり」と合図する。	2番員の「放水止め」の伝達を右手を横水平に上げて「放水止め」と復唱する。その後開閉ハンドルを閉め、送水を中止し、その場で姿勢を正す。
納め	係員の「納め」の合図により「納め」と号令し、1番員が筒先を離脱し、確認した後待機指揮位置に移動し、各隊員の収納操作を監視後、服装を整え姿勢を正す。	指揮者の「納め」の号令後、筒先とホースを離脱し、筒先を背負い筒先収納位置に向かい、筒先を元の位置に戻し待機線に至り、服装を整え姿勢を正す。	指揮者の「納め」の号令後、待機線に至り、服装を整え姿勢を正す。	指揮者の「納め」の号令後、ホース第1接合部を離脱し、スタンドパイプと開閉ハンドルを元の位置に戻し、待機線に至り服装を整え姿勢を正す。
点検報告	各隊員が整列後、「点検報告」と号令し、各隊員の報告に対し、それぞれ「よし」と呼称する。	最後に器具を収納したときは、ホースを離脱したときは、ホースの扉を閉める。	【1番員と3番員】 最後に器具を収納したときは、ホースの扉を閉める。	指揮者の「点検報告」の号令に対し、1番員・2番員に続いて「3番員異常なし」と報告する。(指揮者の向きを変えざる必要なし。)
申告	待機指揮位置で回れ右をし、報告受領者に拳手注目の敬礼後、「○目衛消防隊、屋外消火栓操作法を終了しました」と報告し、拳手注目の敬礼を行った後、回れ右をする。	各隊員は、基本の姿勢で待つ。	各隊員は、基本の姿勢で待つ。	
解散	「わかかれ」と号令し、各隊員に敬礼し解散させる。	指揮者の「わかかれ」の号令により一斉に指揮者に正対し、拳手注目の敬礼を行い解散する。		

屋外消火栓操法審査表（総合）

隊名		氏名 審査員		減点		検査係	
----	--	-----------	--	----	--	-----	--

項	減 点 事 項	減 点	
集 合	服装のみだれ	2	
	待機線発進動作不整一	2	
操 作 要 領	ホース、筒先、結合不完全（1ヶ所）	5	
	ホースのねじれ（360度1ヶ所）	5	
	放水中の結合部離脱	20	
	水漏れ、噴出（1ヶ所）	5	
	放水位置不適（危険ラインオーバー）	5	
	服装のみだれ	2	
全 般	隊の士気欠如	5	
合 計			

屋外消火栓操法審査表（指揮者）

隊名		氏名 審査員		減点		検査係	
----	--	-----------	--	----	--	-----	--

項	減点事項	減点	
操作要領	号令・申告内容・想定・合図・呼称・脱誤 (1ヶ所につき)	1	
	操作開始時機不適	1	
	注水位置指示要領不適	1	
	火点先行時機不適	1	
	火点監視時機不適	1	
	「放水止め」時機不適	1	
	「納め」時機不適	1	
	服装等点検不適	1	
	基本外動作 (1ヶ所につき)	1	
その他	器具の踏みつけ、けとばし (1回につき)	2	
	自己の転倒 (1回につき)	2	
	不必要な動作 (1回につき)	2	
合 計			

屋外消火栓操法審査表（1番員）

隊名		氏名 審査員		減点		検査係	
----	--	-----------	--	----	--	-----	--

項	減点事項	減点	
操作要領	呼称・復唱・報告・脱誤 (1ヶ所)	1	
	待機線発進動作不適	1	
	操作開始時機不適	1	
	筒先を背負う要領不適	1	
	ホースをおろす要領不適	1	
	「放水始め」時機、姿勢、位置不適	1	
	余裕ホース操作要領不適	1	
	注水姿勢不適	1	
	筒先の離脱要領不適	1	
	筒先を背負う要領不適	1	
	筒先をおろす要領不適	1	
	服装等点検要領不適	1	
	基本外動作（1ヶ所につき）	1	
その他	器具の踏みつけ、けとばし（1回につき）	2	
	器具の落下、投げつけ（1回につき）	2	
	自己の転倒（1回につき）	2	
	不必要な動作（1回につき）	2	
合 計			

屋外消火栓操法審査表（２番員）

隊名		氏名 審査員		減点		検査係	
----	--	-----------	--	----	--	-----	--

項	減点事項	減点	
操作要領	呼称・復唱・報告・脱誤（１ヶ所）	1	
	待機線発進動作不適	1	
	操作開始時機不適	1	
	第1ホース展張要領不適	1	
	「放水始め」受領位置不適	1	
	伝達位置不適（放水始め）	1	
	伝達姿勢不適	1	
	注水補助姿勢不適	1	
	「放水止め」伝達順路行動不適	1	
	火点方向への順路行動不適	1	
	伝達位置不適	1	
	伝達姿勢不適	1	
	服装等点検要領不適	1	
	基本外動作（１ヶ所につき）	1	
その他	器具の踏みつけ、けとばし（１回につき）	2	
	器具の落下、投げつけ（１回につき）	2	
	自己の転倒（１回につき）	2	
	不必要な動作（１回につき）	2	
合 計			

屋外消火栓操法審査表（3番員）

隊名		氏名 審査員		減点		検査係	
----	--	-----------	--	----	--	-----	--

項	減点事項	減点	
操作要領	呼称・復唱・報告・脱誤（1ヶ所）	1	
	待機線発進動作不適	1	
	操作開始時機（呼称「よし」）不適	1	
	放水準備姿勢不適	1	
	「放水始め」以前の放水	5	
	「放水始め」伝達受領不適	1	
	放水中の姿勢不適	1	
	「放水止め」伝達受領不適	1	
	放口離脱要領不適	1	
	スタンドパイプ収納要領不適	1	
	開閉ハンドル収納要領不適	1	
	服装等点検要領不適	1	
	基本外動作（1ヶ所につき）	1	
その他	器具の踏みつけ、けとばし（1回につき）	2	
	器具の落下、投げつけ（1回につき）	2	
	自己の転倒（1回につき）	2	
	不必要な動作（1回につき）	2	
合 計			

屋外消火栓操法の部計時審査表

隊名		審査員	
----	--	-----	--

計時員 1	計時員 2	平均タイム

減点

(平均タイム 1 秒につき 1 点減点)

- ★スタートの合図から標的が転倒するまでのタイムを記入。
- ★小数点第 2 位まで記入のこと。
- ★平均タイムは、集計係が記入します。

小型動力ポンプ操法の部

湖 南 防 火 保 安 協 会

小型動力ポンプ操法の部

【訓練規定】

1 使用器具等

使用するポンプ他器具一式は、持ち込みのものとする。

使用消防ホースは内径65mm、長さ20m、3本とする。

吸管は長さ6mとする。

ノズル口径は20mmとする。

とび口は長さ1.5m以上のものとする。

2 服 装

出場隊員の服装は、操法に適したもので長袖・長ズボン・手袋とし、袖は手袋をはめた状態で皮膚が見えない長さ、ズボン裾、靴下は皮膚が見えない状態であること。手袋は、革手袋・軍手等指定しないが、皮膚が露出しないものとする。

靴は運動靴（安全靴可）とし、ヘルメットを着用すること。

3 操 法 要 領

別に定める小型動力ポンプ操法要綱のとおり

4 進 行 合 図

出場準備 出場準備係は「出場準備」と声を出して赤旗を下げる。

訓練開始 出場準備係は「操作開始」と声を出して赤旗を下げる。

標的転倒 標的係は2ヶ所の標的が転倒したならば赤旗を下げる。

放水止め 標的係は「放水止め」と声を出して赤旗を下げる。

排水完了 標的係は1番員の前方で「排水止め」と声を出して赤旗を正面斜め前方に振る。

納 め 標的係は「納め」と声を出して赤旗を下げる。

【審査規定】

1 審査範囲

(1) 操法動作範囲

全体動作に係る、共同操作の不統一および操作の不確実な行動について審査減点する。指揮者の「操作始め」から「別れ」までとする。

※ポンプ圧力は、操作員の危険防止のため0.4MPa(4kg/cm²)に制限し、越えた場合は減点とする。

※余裕ホースは、放口側2m、筒先側5mを確保する。(計測なし)

(2) 所要時分審査

指揮者の「操作始め」の号令による3番員の「よし」の合図の「し」から2ヶ所の標的が転倒するまでを計時し、基準タイム(65秒)を1秒超過ごとに1点減点する。なお、基準タイム以内に標的が転倒しても加点しない。

2 失格等

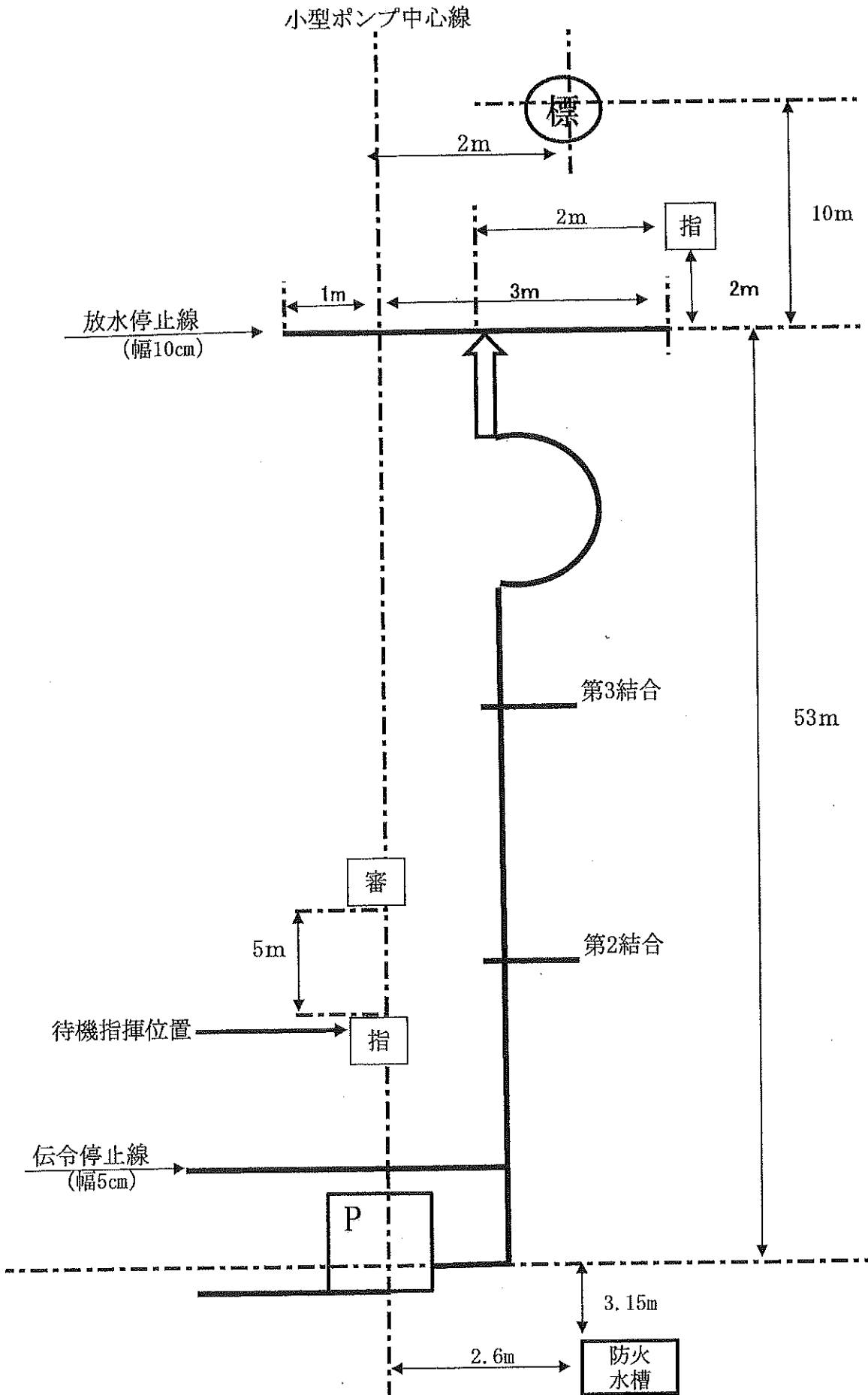
(1) 出場時に待機位置に集合しない場合

(2) 訓練実施中、出場者に不測の事故が発生し、訓練の続行が不可能と認められる場合は、審査長の判断により「中止」または「再訓練」を決定する。

3 順位の決定

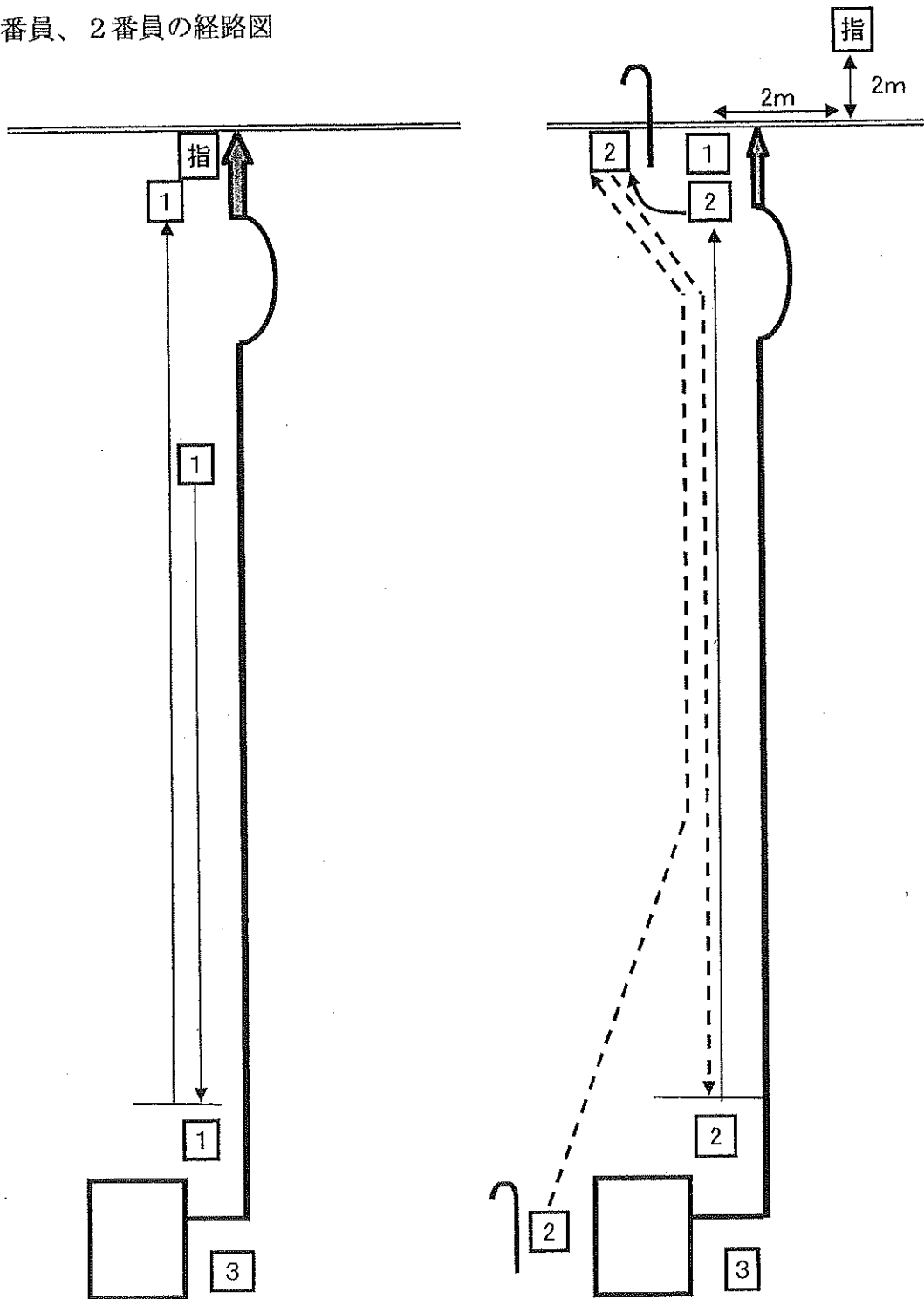
審査規定に基づき審査し、その減点数を合計し、減点数10点以内で所要時分65秒未満のチームを入賞とする。また、その中から減点数の少ないものを上位とする。同点数の場合は、所要時分の速いものを上位とする。

小型動力ポンプ操法 全体図



小型動力ポンプ操法 経路図

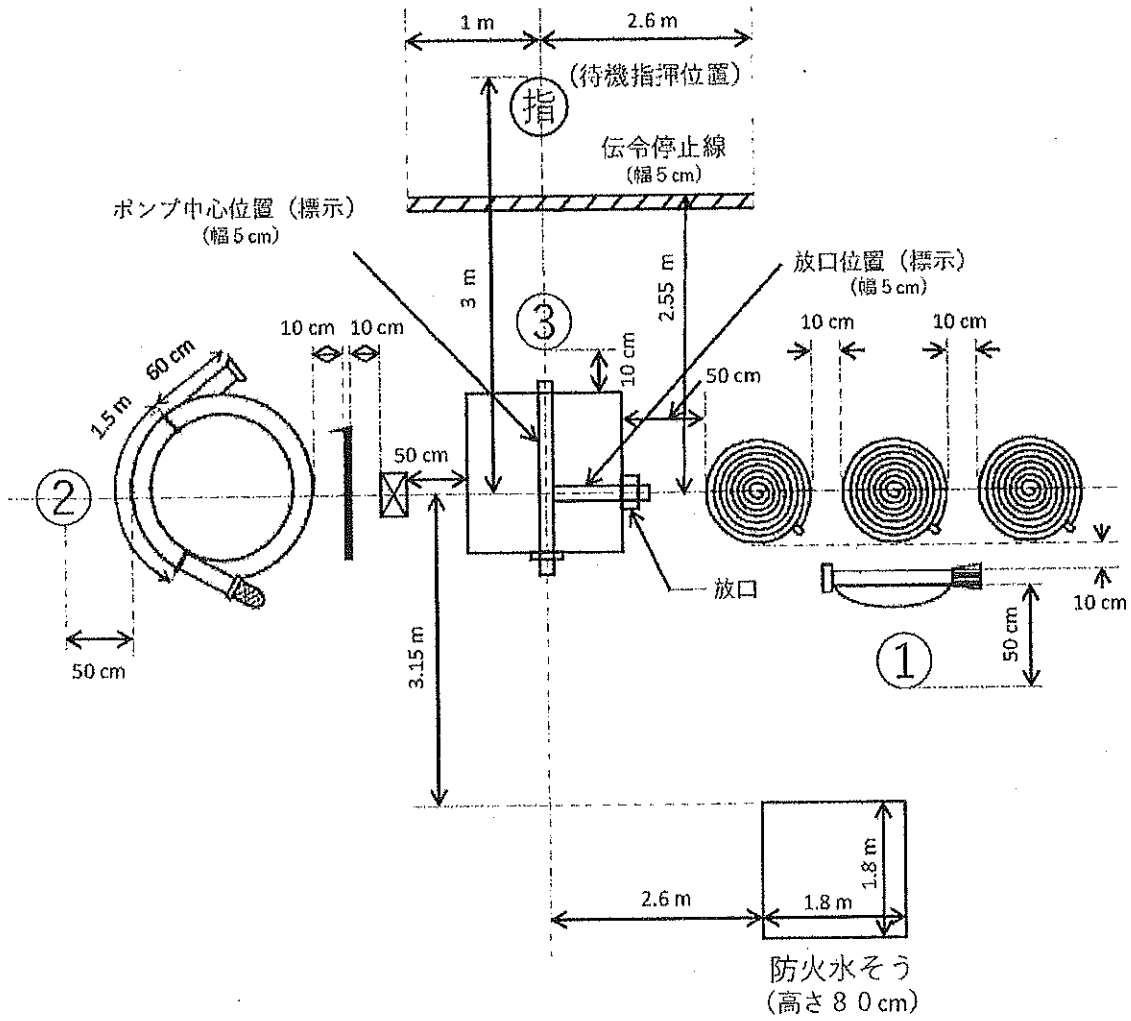
1番員、2番員の経路図



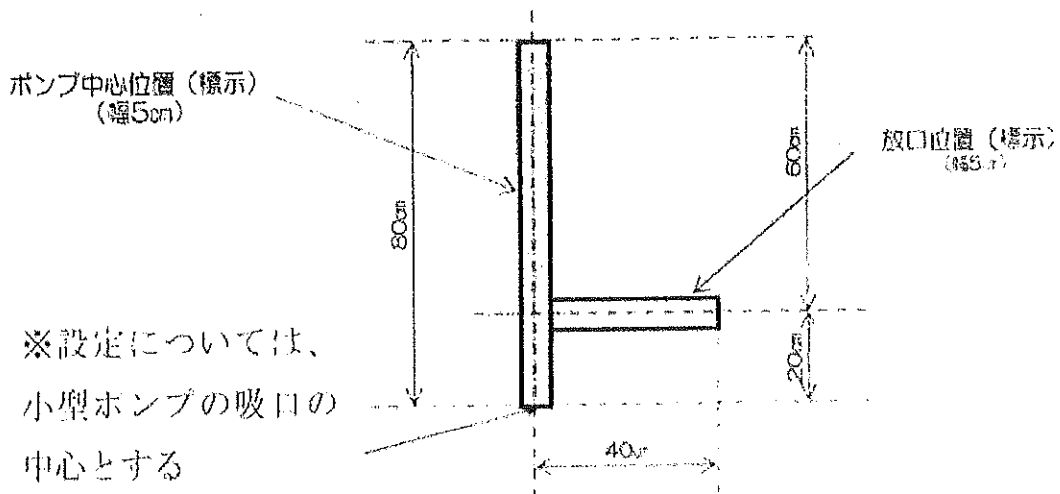
放水始め

とび口搬送、放水止め

小型動力ポンプ操法 全体図



ポンプ位置表示



※設定については、
小型ポンプの吸口の
中心とする

※滋賀県消防操法訓練大会
操法実施要領(令和5年度)抜粋

小型動力ポンプ操法の部実施要領

	1 番 員	2 番 員	3 番 員
待機	係員の合図で、待機指位置に向かい、火点方向を向いて整列休めの姿勢で待機する。	係員の合図で、待機指位置に向かい、火点方向を向いて整列休めの姿勢で待機する。	係員の合図で、待機指位置に向かい、火点方向を向いて整列休めの姿勢で待機する。
点呼	係員の合図により待機指位置で回れ右をし、各隊員に対して相対した後、「気を付け」の号令をかけ隊員を基本の姿勢にし、「番号」と号令する。	係員の合図により待機指位置で回れ右をし、各隊員に対して相対した後、「気を付け」の号令をかけ隊員を基本の姿勢にし、「番号」と号令する。	係員の合図により待機指位置で回れ右をし、各隊員に対して相対した後、「気を付け」の号令をかけ隊員を基本の姿勢にし、「番号」と号令する。
開始報告	待機指位置で回れ右をし、報告受領者に拳注目の敬礼を行い、「〇〇自衛消防隊、ただいまから小型動力ポンプ操法を開始します」と報告し、拳注目の敬礼を行った後、回れ右をする。	待機指位置で回れ右をし、報告受領者に拳注目の敬礼を行い、「〇〇自衛消防隊、ただいまから小型動力ポンプ操法を開始します」と報告し、拳注目の敬礼を行った後、回れ右をする。	待機指位置で回れ右をし、報告受領者に拳注目の敬礼を行い、「〇〇自衛消防隊、ただいまから小型動力ポンプ操法を開始します」と報告し、拳注目の敬礼を行った後、回れ右をする。
想定付与	「火点は前方の標的、水利はポンプ右側後方の防火水糺、手びらめによる二重巻きホース一繰延長」と号令する。	「火点は前方の標的、水利はポンプ右側後方の防火水糺、手びらめによる二重巻きホース一繰延長」と号令する。	「火点は前方の標的、水利はポンプ右側後方の防火水糺、手びらめによる二重巻きホース一繰延長」と号令する。
第1繰延長	(1)「操作始め」と号令する。 (2)ホース延長 3番員の「よし」の合図で半ば左に向きを変え(足は引きつけることなく)発煙、ホースの外側を通って筒先位置に至り、折ひざの姿勢で筒先を取った後背負い、さらにホース(第3ホース)のめす金具部を右手で、左手はめす金具の反対側を保持し、めす金具が上部斜め前方になるように左肩上に乗せ、めす金具部を左手に持ち替え、右手を下ろして立ち上がり、進行方向に向きを変えて前進し、第1、第2ホースの延長距離を考慮して火点に向かかって前進し、第3ホースを下げると同時に右手でめす金具部を持ち替え、左手でめす金具の反対側を保持し、めす金具が手前になるように肩からおろして地面に立て、展張する。次いで右手はめす金具を持つまま左足を軸に身体を右回りに反転させ、めす金具を左足近くに置き、身体を確認し、筒先を第3ホースと結合して確認し、	(1)ホース延長 3番員の「よし」の合図により、筒先の元金具部の位置近くに左足を1歩踏み出し、第1ホースのめす金具部を右手で、めす金具の反対側を左手で持つて展張に便利な位置に立て、展張し、めす金具が手前になるように地面に立て、展張し、筒先をホースから離すと同時にめす金具を両手で持ち上げ左手でめす金具、右手はホースに持ち替え、おおむね2メートルの余裕を確保し、確認する。つづいて折ひざ又は折ひざに結合し、第2ホースの左側に沿って延長し、火点に向かかって前進する。第2結合実施場所において、第1ホースのおす金具をその場に置き、第2ホースをめす金具が手前になるように肩からおろして地面に立て、展張し、第2ホースのおす金具近くを折って搬送に便利な位置に置き、	(1)吸管操作 3番員の「よし」の合図で右向けの要領で(足を引っかけることなく)吸管側面を右側に移動し、右足を立てた折りひざの姿勢で吸管バンドを取り部(ストレーナー)に移動し、右足を立てた折りひざの姿勢で吸管バンドをはずし、ストレーナー一部付近の吸管を両手で腰節まで持ち上げ3番員と協力して吸管がよじれないようにポンプ後方に伸長し、その場に置き、ポンプ方向に向きを変えて前進し3番員の2歩後方の位置にいたり、吸管をまたいで両手で吸管を持ち、両足のふくらはぎで吸管をささみ(両足かかとを接する。)左手は吸管の下を、右手は吸管の上を保持して3番員の吸管結合の補助を行い、3番員の「よし」の合図で両手両足を吸管から離し、左足を軸に右足をかえて前進し、ストレーナー方向に向きをかえて前進し、ストレーナー上から吸管を左腰部に持ち上げ、ストレーナー側に重心をかけ、3番員の「よし」の合図で3番員と歩調を合わせて、
	(1)吸管操作 指揮者の「操作始め」の号令で「よし」と呼出し、左向けの要領で左に向きを変え(足を引っかけることなく)吸管バンドをはずし、結合金具近くの吸管を両手で腰節まで持ち上げ、2番員と協力してよじれないように結合金具が吸口に結合しやすい位置になるように搬送してその場に置く。つづいて吸口に面して吸管左側で折ひざ又は折ひざに結合した姿勢で吸管をささみ(両足を起こしてから右足で吸管をまたぎ、吸管の結合金具を両手で持つと同時に両足かかとを接する。)左手は吸管の下を、右手は吸管の上を保持して3番員の吸管結合の補助を行い、3番員の「よし」の合図で両手両足を吸管から離し、左足を軸に右足をかえて前進し、ストレーナー方向に向きをかえて前進し、ストレーナー上から吸管を左腰部に持ち上げ、「よし」と呼出し	(1)吸管操作 指揮者の「操作始め」の号令で「よし」と呼出し、左向けの要領で左に向きを変え(足を引っかけることなく)吸管バンドをはずし、結合金具近くの吸管を両手で腰節まで持ち上げ、2番員と協力してよじれないように結合金具が吸口に結合しやすい位置になるように搬送してその場に置く。つづいて吸口に面して吸管左側で折ひざ又は折ひざに結合した姿勢で吸管をささみ(両足を起こしてから右足で吸管をまたぎ、吸管の結合金具を両手で持つと同時に両足かかとを接する。)左手は吸管の下を、右手は吸管の上を保持して3番員の吸管結合の補助を行い、3番員の「よし」の合図で両手両足を吸管から離し、左足を軸に右足をかえて前進し、ストレーナー方向に向きをかえて前進し、ストレーナー上から吸管を左腰部に持ち上げ、「よし」と呼出し	(1)吸管操作 指揮者の「操作始め」の号令で「よし」と呼出し、左向けの要領で左に向きを変え(足を引っかけることなく)吸管バンドをはずし、結合金具近くの吸管を両手で腰節まで持ち上げ、2番員と協力してよじれないように結合金具が吸口に結合しやすい位置になるように搬送してその場に置く。つづいて吸口に面して吸管左側で折ひざ又は折ひざに結合した姿勢で吸管をささみ(両足を起こしてから右足で吸管をまたぎ、吸管の結合金具を両手で持つと同時に両足かかとを接する。)左手は吸管の下を、右手は吸管の上を保持して3番員の吸管結合の補助を行い、3番員の「よし」の合図で両手両足を吸管から離し、左足を軸に右足をかえて前進し、ストレーナー方向に向きをかえて前進し、ストレーナー上から吸管を左腰部に持ち上げ、「よし」と呼出し

指 揮 者	1 番 員	2 番 員	3 番 員
<p>左手でブレイブ上部を持ち、右手で取手を握ると同時にホースから左足を離して(右足を軸)火点側へ1歩踏み込み、基本注水姿勢をとる。1番員が正しホースを延ばし、3番員と結合して姿勢を正した時点で1番員に対し「放水始め」と呼出し、1番員の復唱後、火点に向かっておおむね15メートル前進し、左上腕と腹部で筒先を抱え込み、折りひびき又は折り左足を保持して立つと同時に右足を1歩大きく踏み出し半円を描くようにひろげ、おおむね5メートルの余裕がある場所をつくる。)基本注水姿勢をとる。次いで右手を筒先から離さないように滑らせながらブレイブの中央付近へ移動し、筒先を右腋下と右腕で完全に抱え、左手を筒先から離さず滑らせながらノズルを握り徐々にノズルを開いたならば左手を離さなければ、1番員が左手でブレイブ上部を握り、右手も滑らせないように滑らせながら取手を握って構的に注水する。</p> <p>(3)筒先員交替 1番員が注水部署にいたり伝達終了と合同したならば「筒先員交替」と号令し、1番員が左斜め前にいたり、筒先交替の姿勢になったならば、左手をブレイブ上部を離さないように滑らせながら取手の方向に一握り下げ、1番員が左手でブレイブ上部を握ったならば左足を斜め後方に半歩下げ、左手を離すと同時に取手を握り基本注水姿勢どなって「よし」の合同で取手から右手と腹部に確実には保持し、1番員が右手を変え、かけ足進行の要領で前進し1番員後方付近のホースをまたぎ火点指揮位置(1番員の斜め右前方おおむね3メートル)に、火点に向かかって停止し、火点の状況を監視する。</p>	<p>第1ホースと第2ホースを結合し確認する。次いで第2ホースのおおむね1メートルを伸ばし、腰につけた後腰張ホースの左側に沿って延長し、第3結合実施場所について、第2ホースのおおむね1メートルを伸ばし、第3ホースのおおむね1メートルを伸ばし、確認して火点の方向に向きを変え、右足を左足に引きつけて基本の姿勢をとる。(筒先が指揮者の「放水始め」を復唱し、回れ右をして右足を引っかけ、左足を1歩踏み出した姿勢)発進し、延長ホースの左側に沿ってポンプ方向に前進する。</p> <p>(2)放水開始の伝達 伝達停止線内の位置で3番員に相対して停止し、右手を垂直に上げて「放水始め」と3番員に伝達し、3番員が復唱の手を下げた後右足を引っかけ、回れ右をして(右足を引っかけ、左足を引っかけ)発進し延長ホースの左側に沿って指揮者の1歩後方にいたり、(左足を1歩踏み出した姿勢)「伝達終了」と呼唱する。つづいて指揮者の「筒先員交替」と呼唱する。つづいて指揮者の「よし」と合同して交替する。</p>	<p>左足から2歩半で取管投入に便利な位置まで進み、右足を軸として(右足を軸)火点側へ1歩踏み出し、筒先を保持して姿勢を正し、筒先を右腋下と右腕で完全に抱え、左手を筒先から離さず滑らせながらノズルを握り徐々にノズルを開いたならば左手を離さなければ、1番員が左手でブレイブ上部を握り、右手も滑らせないように滑らせながら取手を握って構的に注水する。</p> <p>(2)筒先員交替 1番員が注水部署にいたり伝達終了と合同したならば「筒先員交替」と号令し、1番員が左斜め前にいたり、筒先交替の姿勢になったならば、左手をブレイブ上部を離さないように滑らせながら取手の方向に一握り下げ、1番員が左手でブレイブ上部を握ったならば左足を斜め後方に半歩下げ、左手を離すと同時に取手を握り基本注水姿勢どなって「よし」の合同で取手から右手と腹部に確実には保持し、1番員が右手を変え、かけ足進行の要領で前進し1番員後方付近のホースをまたぎ火点指揮位置(1番員の斜め右前方おおむね3メートル)に、火点に向かかって停止し、火点の状況を監視する。</p>	<p>左足から2歩半で取管投入に便利な位置まで進み、右足を軸として(右足を軸)火点側へ1歩踏み出し、筒先を保持して姿勢を正し、筒先を右腋下と右腕で完全に抱え、左手を筒先から離さず滑らせながらノズルを握り徐々にノズルを開いたならば左手を離さなければ、1番員が左手でブレイブ上部を握り、右手も滑らせないように滑らせながら取手を握って構的に注水する。</p> <p>(2)筒先員交替 1番員が注水部署にいたり伝達終了と合同したならば「筒先員交替」と号令し、1番員が左斜め前にいたり、筒先交替の姿勢になったならば、左手をブレイブ上部を離さないように滑らせながら取手の方向に一握り下げ、1番員が左手でブレイブ上部を握ったならば左足を斜め後方に半歩下げ、左手を離すと同時に取手を握り基本注水姿勢どなって「よし」の合同で取手から右手と腹部に確実には保持し、1番員が右手を変え、かけ足進行の要領で前進し1番員後方付近のホースをまたぎ火点指揮位置(1番員の斜め右前方おおむね3メートル)に、火点に向かかって停止し、火点の状況を監視する。</p>
<p>第1番員の「放水止め」の合同で「よし」と呼唱して、とび口をその場に置き、筒先を軸として後方に向きを変えて発進し、延長ホースの左側に沿って伝令停止線内の位置で「放水止め」と呼唱し、右手を横水平にあげて「放水止め」と呼唱し、③に伝達し、③が復唱の手を下ろした後に右足を下ろし、回れ右をして(右足を引っかけ)発進し、延長ホースの左側に沿って①の1歩後方で停止し、②に伝達し、「伝達終了」と呼唱し、進行方向に向きを変えて姿勢を正す。</p>	<p>1番員の「放水止め」の合同で「よし」と呼唱して、とび口をその場に置き、筒先を軸として後方に向きを変えて発進し、延長ホースの左側に沿って伝令停止線内の位置で「放水止め」と呼唱し、右手を横水平にあげて「放水止め」と呼唱し、③に伝達し、③が復唱の手を下ろした後に右足を下ろし、回れ右をして(右足を引っかけ)発進し、延長ホースの左側に沿って①の1歩後方で停止し、②に伝達し、「伝達終了」と呼唱し、進行方向に向きを変えて姿勢を正す。</p>	<p>2番員の「放水止め」の伝達で「よし」と呼唱して、とび口をその場に置き、筒先を軸として後方に向きを変えて発進し、延長ホースの左側に沿って伝令停止線内の位置で「放水止め」と呼唱し、右手を横水平にあげて「放水止め」と呼唱し、③に伝達し、③が復唱の手を下ろした後に右足を下ろし、回れ右をして(右足を引っかけ)発進し、延長ホースの左側に沿って①の1歩後方で停止し、②に伝達し、「伝達終了」と呼唱し、進行方向に向きを変えて姿勢を正す。</p>	<p>左足から2歩半で取管投入に便利な位置まで進み、右足を軸として(右足を軸)火点側へ1歩踏み出し、筒先を保持して姿勢を正し、筒先を右腋下と右腕で完全に抱え、左手を筒先から離さず滑らせながらノズルを握り徐々にノズルを開いたならば左手を離さなければ、1番員が左手でブレイブ上部を握り、右手も滑らせないように滑らせながら取手を握って構的に注水する。</p> <p>(2)筒先員交替 1番員が注水部署にいたり伝達終了と合同したならば「筒先員交替」と号令し、1番員が左斜め前にいたり、筒先交替の姿勢になったならば、左手をブレイブ上部を離さないように滑らせながら取手の方向に一握り下げ、1番員が左手でブレイブ上部を握ったならば左足を斜め後方に半歩下げ、左手を離すと同時に取手を握り基本注水姿勢どなって「よし」の合同で取手から右手と腹部に確実には保持し、1番員が右手を変え、かけ足進行の要領で前進し1番員後方付近のホースをまたぎ火点指揮位置(1番員の斜め右前方おおむね3メートル)に、火点に向かかって停止し、火点の状況を監視する。</p>

第1線延長

放水止

	指揮者	1 番員	2 番員	3 番員
収納	係員の合図により1番員の方向に向きを変え「おさめ」と号令し、1番員が優先を離脱し、背負うのを確認した後進行方向に向きを変え1番員とともに前進し、第1線第2ホースをまたいで小型ポンプ方向を向いて待機指揮位置で停止する。	指揮者の「おさめ」の号令に「よし」と呼出し、筒先を第3ホースから離脱し、背負った後指揮者とともに前進し、第1線第1ホースをまたいでポンプ右側をどおり折りひざの姿勢で筒先をおろし元の位置に収め、その場に待機する。	指揮者の「おさめ」の号令に「よし」と呼出し、口を浮かし、回れ右の要領で向きを変えると同時にとび口を左手に持ち替え左腋下に抱え、3番員の待機位置に配意しながら、火点方向に向きを変え、おおもむね待機時の取管配座位置の中心付近にとび口を収め、その場に待機する。	指揮者の「おさめ」の号令に「よし」と呼出し、左足を1歩踏み出し、エンジンを停止した後第1結合を離脱し、ホースを伸長（筒先収納に支障のない位置）させた後、待機位置に移動し、待機する。
点服検査	待機指揮位置に停止した段階で、負傷の有無及び服装の乱れを点検し整える。	収納時の位置に停止した段階で、負傷の有無及び服装の乱れを点検し整え、基本の姿勢で待つ。		
点検報告	各隊員の身体、服装の点検後「点検報告」と号令し、各隊員の点検結果の報告に対しそれぞれ「よし」と呼出して受領する。	身体、服装の点検終了後、指揮者の「点検報告」の号令で1番員から3番員まで順次指揮者に相対し、「○番員異常なし」と報告する。		
終了報告	待機指揮位置で回れ右をし、報告受領者に拳注目目の敬礼を行い「○○自衛消防隊、小型動力ポンプ操法を終了しました。」と報告し、拳注目目の敬礼を行った後、回れ右をし各隊員に対して相対する。	指揮者の終了報告中は基本の姿勢で待つ。		
解散	各隊員に対し「わかれ」と号令し、各隊員に敬礼し解散させる。	指揮者の「わかれ」の号令により、一斉に指揮者に相対し拳注目目の敬礼を行い解散する。		

小型動力ポンプ審査表（総合）

隊名		審査員		減点		係	
----	--	-----	--	----	--	---	--

項	減点事項	減点	
集 合	服装のみだれ	2	
	定位発進動作不整一	2	
	各個動作不整	2	
操 作 要 領	ホース（筒先）結合不完全 （1ヶ所につき）	5	
	ホースのねじれ （360度、1ヶ所につき）	5	
	延長後のひきずり （1回につき）	5	
	放水中の結合部離脱	20	
	水漏れ、噴出 （1ヶ所につき）	5	
	放水位置不適 （危険ラインオーバー）	5	
	服装のみだれ	2	
全 般	隊の士気欠如	5	
合 計			

小型動力ポンプ審査表（指揮者）

隊名		審査員		減点		係
----	--	-----	--	----	--	---

項	減点事項	減点	
操作要領	呼称・申告内容・想定・合図・脱誤 (1ヶ所につき)	1	
	操作開始時機不適	1	
	筒先を背負う要領不適	1	
	ホース搬送要領不適	1	
	第3ホースをおろす要領不適	1	
	第3ホース展長要領不適	1	
	第3ホース延長要領不適	1	
	火点先行時機不適	1	
	余裕ホース操作要領不適	1	
	注水姿勢不適	1	
	筒先員交代要領不適	1	
	「放水止め」時機不適	1	
	②番員のトビロ保持後の火点監視時機不適	1	
	「納め」時機不適	1	
服装等点検不適	1		
基本外操作 (1ヶ所につき)	1		
その他	器具の踏みつけ、けとばし (1回につき)	2	
	器具の落下、投げつけ (1回につき)	2	
	自己の転倒 (1回につき)	2	
	不必要な動作 (1回につき)	2	
合 計			

小型動力ポンプ審査表（1番員）

隊名		審査員		減点		係	
----	--	-----	--	----	--	---	--

項	減点事項	減点	
操作要領	呼称、復唱、報告、脱誤（1ヶ所につき）	1	
	操作開始時機不適	1	
	第1ホース展張要領不適	1	
	第1結合要領不適	1	
	第1ホース延長要領不適	1	
	第2ホース搬送要領不適	1	
	第2ホース展張要領不適	1	
	第2結合要領不適	1	
	第2ホース延長要領不適	1	
	第3結合要領不適	1	
	「放水始め」受領位置不適	1	
	伝達順路・位置・姿勢不適（1ヶ所につき）	1	
	火点方向への順路行動不適	1	
	筒先交代要領不適	1	
	注水姿勢不適	1	
	ノズル操作要領不適	1	
	筒先離脱要領不適	1	
	筒先搬送・収納要領不適	1	
	服装等点検不適	1	
	基本外操作（1ヶ所につき）	1	
その他	器具の踏みつけ、けとばし（1回につき）	2	
	器具の落下、投げつけ（1回につき）	2	
	自己の転倒（1回につき）	2	
	不必要な動作（1回につき）	2	
合 計			

小型動力ポンプ審査表（2番員）

隊名		審査員		減点		係	
----	--	-----	--	----	--	---	--

項	減点事項	減点	
操作要領	呼称、復唱、報告、脱誤（1ヶ所につき）	1	
	操作開始時機不適	1	
	吸管伸長要領不適	1	
	吸管搬送要領不適	1	
	吸管結合補助動作不適	1	
	水利までの吸管搬送要領不適	1	
	吸管投入操作要領不適	1	
	控網結索要領不適	1	
	枕木搬送固定要領不適	1	
	とび口を持つ要領不適	1	
	とび口搬送要領不適	1	
	とび口を構える位置要領不適	1	
	とび口を置く要領不適	1	
	ポンプ前に至る順路行動不適	1	
	「放水止め」位置不適	1	
	「放水止め」姿勢不適	1	
	火点方向への順路行動不適	1	
	「伝達終わり」時の停止位置不適	1	
	服装点検不適	1	
	基本外操作（1ヶ所につき）		
その他	器具の踏みつけ、けとばし（1回につき）	2	
	器具の落下、投げつけ（1回につき）	2	
	自己の転倒（1回につき）	2	
	不必要な動作（1回につき）	2	
合 計			

小型動力ポンプ審査表（3番員）

隊名		審査員		減点		係	
----	--	-----	--	----	--	---	--

項	減点事項	減点	
操作要領	呼称、復唱、報告、脱誤（1ヶ所につき）	1	
	操作開始時機不適	1	
	吸管のひきずり	1	
	吸管結合動作不適	1	
	吸管中央部への移動要領不適	1	
	吸管搬送動作の不整一	1	
	吸管投入動作の不整一	1	
	余裕ホースの配意要領不適	1	
	エンジン始動要領不適	1	
	真空操作要領不適	1	
	伝達受領要領不適（放水始め）	1	
	放水時機不適	1	
	放水状況不適	1	
	ポンプ制限圧力超過（0.4Mpa以上は減点）	1	
	伝達受領要領不適（放水止め）	1	
	放口離脱要領不適	5	
服装等点検要領不適	1		
基本外操作（1ヶ所につき）	1		
その他	器具の踏みつけ、けとばし（1回につき）	2	
	器具の落下、投げつけ（1回につき）		
	自己の転倒（1回につき）	2	
	不必要な動作（1回につき）	2	
合 計			

小型動力ポンプ操法の部計時審査表

隊名		氏名	審査員
----	--	----	-----

計時員 1	計時員 2	平均タイム

減	点

(基準タイム65秒を1秒超過するごとに、1点減点する。)

- ★ 3番員の「よし」の「し」から2ヶ所の標的が落下するまでのタイムを記入のこと。
- ★ 小数点第2位まで記入のこと。
- ★ 平均タイムは、集計係が記入します。